

# 介護 EX(Caregiving Exhibition)

## 2026 年から正式競技化へ。

### 介護職の技能が社会的に評価される時代へ

#### 第 63 回技能五輪全国大会で「介護」職種がエキシビションとして実施

##### ◆若手介護職の育成と職業魅力の発信へ

2025 年 10 月 18 日(土)・19 日(日)、愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)にて『第 63 回技能五輪全国大会』が開催されました。この大会は、国内の青年技能者が技能レベルを競い合うことにより、若者に努力目標を示すとともに、技能に身近に触れる機会を提供することなどを通じて、技能の重要性や必要性を広く国民に伝え、技能尊重の機運を高めることを目的としています。

※技能五輪全国大会については中央職業能力開発協会(JAVADA)HP をご確認ください。

<https://www.javada.or.jp/>

##### ◆介護職種が初の公開競技として登場

今回の大会では、「介護」職種が初めて『エキシビション(公開競技)』として実施されました。

介護職種の技能向上と社会的評価の向上、そして若年層への職業魅力の発信を目的とした試験的な取り組みであり、2026 年度から正式競技化する方針です。

今回の競技では、介護キャリア段位制度の評価項目をベースに、技術力を中心とした多角的な評価が行われました。競技ブースには、競技課題となった入浴・食事・排泄の各介護場面ごとの環境が整えられ、出場者はアセスメントシートに記された「利用者役」の状態や背景を読み取り、設定された介護行為を実施しました。評価は、利用者の状態にあわせた介護技術と対応力、安全の確保、利用者への意向確認・配慮など、専門性が問われる内容となっており、実践的なスキルと判断力が求められました。

##### ◆競技概要と出場者

- 主催：厚生労働省、中央職業能力開発協会(JAVADA)、開催県(愛知県)
- 開催日：2025 年 10 月 18 日(土)、19 日(日)
- 会場：愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)
- 介護職種の競技課題：3 競技課題(入浴介助 / 食事介助 / 排泄介助)
- 競技者：福祉高校の高校生、介護福祉士養成大学の学生、介護福祉士会等の各団体推薦による介護職員を含め合計 9 名
- 介護職種の競技準備・運営協力団体(2025年エキシビション)：公益社団法人 全国老人福祉施設協議会、公益社団法人 全国老人保健施設協会、公益社団法人 日本介護福祉士会、公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会、公益社団法人 日本認知症グループホーム協会、一般社団法人 全国介護付きホーム協会、一般社団法人 日本慢性期医療協会、介護福祉士養成大学連絡協議会、全国福祉高等学校長会、一般社団法人 シルバーサービス振興会 (※民間介護事業推進委員会構成団体を含む)

##### ◆介護職の未来に向けて

介護従事者は、超高齢社会を迎えた日本において、高齢者や障がいのある方等が安心して自立した生活を送るために欠かせない存在です。また介護は一人で行うものではなく、チームで協力しながら支える仕事であり、実践的な介護スキルの標準化は、ケアの質を高めるうえで非常に重要です。

- 介護従事者が一定の質でケアを提供できるようになることで、利用者の安心感が高まり、職員同士の連携も円滑になります。
- 介護のニーズは年々高まっており、専門的な知識と技術を身につけることで、より質の高いケアの提供が可能になります。

2026 年度からの正式競技化などにより、介護職の専門性や魅力がさらに広く認知され、若手人材の育成や業界全体の技術力向上につながることを期待されています。

# 第63回技能五輪(介護職種)エキシビション競技レポート

## 【競技課題】

競技課題は、基本介護技術の中から「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」の3つが課題として設定されました。競技者は25分間の制限時間内に、事前に配布されたアセスメントシートをもとに、利用者の心身の状態を正確に捉え、それに応じた介護行為を、設定された模擬環境の中で実施します。

評価項目には、利用者の状態に応じた適切な介護技術の選択と実施、状況に応じた柔軟な対応力、安全性の確保、利用者の意向確認や配慮などが含まれており、介護職としての専門性が問われる内容となっています。実際の介護現場を想定した環境で行われるこの競技では、競技者の実践的なスキルと瞬時の判断力が試される構成となっています。

### 入浴介助



### 食事介助



### 排泄介助



## 【審査について】

技能五輪全国大会エキシビションにおける採点基準の策定にあたっては、介護キャリア段位制度の評価項目をベースにしつつ、令和6年度老人保健健康等事業における議論を踏まえ、プレトライアルおよびトライアルを実施し、介護現場に近い競技環境の再現と審査体制の検証を行い作成しました。

採点基準は、メジャメント評価を中心に構成し、介護技術の習熟度や状況対応力を定量的に評価しました。

審査員には、介護の教育や現場指導に携わっている専門家や、長年にわたり介護キャリア段位制度を活用して介護職員の人材育成に取り組んでいるアセッサーにもご参加いただき、審査にご協力いただきました。



<来場者アンケートより>

介護分野での技術は不可欠であると感じるが、実際現場で働く人の多くは無資格者や他職種からきた人たちが溢れている。専門分野を学び、大切さを学び、人に対する尊敬を感じながら働く人は年々少なくなっている。誰もが入職しやすくなった介護、専門性が必要であることを広めてほしい、魅力を伝えてほしいと心から願っている。  
(介護・福祉関係者様)

<来場者アンケート>

とてもよい大会でした。これからも継続していただきたいです。

(介護・福祉関係者様)

<来場者アンケートより>

競技者の姿勢・表情に感動した。

(介護・福祉関係者様)

<エキシビション参加者の声>

技能五輪に介護が正式種目として加わったことで、今後、介護技術の標準化が進み、質の向上につながるものと期待しております。これにより、国が目指す「科学的根拠に基づいた質の高い介護」が、全国の施設で提供される未来が近づいていると実感しております。

(福祉系高校 福祉科長様)

<エキシビション参加者の声>

介護業種が技能五輪に参加することで介護にかかわる若者が自分の基本的知識と技術に自身ももち、自己研鑽の意思が高まり、その活動を配信できる力になる。今まで介護に関わらなかった方も含めてより多くの方が関心をもっていただけると確信いたしました。

(福祉系専門学校 副校長様)

<エキシビション参加者の声>

貴重な時間と空間を体験でき、私自身も若手スタッフも大変刺激をうけた。若手のスタッフには、貴重な経験の場を作っていきたい。

(介護老人保健施設 統括介護部長様)

